

<平成24年度 地球温暖化対策実行計画の施策実施状況の公表について>

地球温暖化対策の推進に関する法律第20条の3第10項の規定に基づき、岩手沿岸南部広域環境組合の地球温暖化対策実行計画の施策実施状況を以下のとおり公表します。

平成25年9月24日

岩手沿岸南部広域環境組合  
管理者 釜石市長 野田武則

1. 温室効果ガス排出量

年 度	温室効果ガス排出量	前年度比	目標年度比
平成23年度(基準年度)	22,988 t(CO <sub>2</sub> )	—	—
平成24年度	26,126 t(CO <sub>2</sub> )	113.65%	119.64%

目標年度(平成28年度)温室効果ガス排出量=21,838 t(CO<sub>2</sub>)

※平成23年度(基準年度)の5%削減を目標

2. エネルギー使用量の目標達成状況

種 別	平成23年度(基準)	平成24年度	前年度比
コークス(t)	2,520	3,048	120.95%
A重油(KL)	270	272	100.74%
昼間電力(千kwh)	433	231	53.35%
夜間電力(千kwh)	296	156	52.70%
軽油(L)	3,000	4,500	150.00%

種 別	平成28年度(目標)	平成24年度	目標年度比
コークス(t)	2,394	3,048	127.32%
A重油(KL)	256	272	106.25%
昼間電力(千kwh)	411	231	56.20%
夜間電力(千kwh)	281	156	55.52%
軽油(L)	2,850	4,500	157.89%

3. 温室効果ガス排出量が増加した要因等について

平成24年度の温室効果ガス排出量が平成23年度と比較して大きく増加した主な要因は、ごみ処理量の増加であります。

ご存じのとおり、平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」により当地区は壊滅

的な被害をこうむりました。

そのため、平成23年度は、通常的生活ごみと併せて災害ガレキ等の処理を進めてまいりましたが、平成23年度前半は、災害ガレキの分別破碎などの施設整備に時間がかかり、思うように災害ガレキの当施設への搬入が進みませんでした。しかし、平成23年度後半に入り、徐々に災害ガレキの処理が進み、平成24年度には順調に処理ができるようになりました。また、住民の生活も、避難所から仮設住宅へ移るなどしてやや落ち着きを取り戻しました。その結果、次のように搬入量が平成24年度は増加しました。

年 度	通常生活ごみ	災害ガレキ	合 計
平成23年度	27,733 t	7,699 t	35,432 t
平成24年度	30,107 t	11,359 t	41,466 t

エネルギーの使用量を見てみると、燃料が多く増加し、電気の使用量は逆に減少しています。ごみの量が増えたことで、コークス等の使用量が増えましたが、逆に自家発電量も増えたため購入する電気量が減少したことによるものです。

しかしながら、CO<sub>2</sub>の発生量としては、ごみ量やコークス等が大きく影響するため電気量が減ったもののトータルではCO<sub>2</sub>発生量が増加いたしました。

#### 4. 今後の対応

災害ガレキ処理は、今年度でほぼ終了するものと見込まれています。平成26年度になれば、大きくごみ量が減少し、CO<sub>2</sub>発生量も抑制されるものと期待されます。

したがって、今年度中は平成24年度並みのごみ量が見込まれますので、極力、燃料等の節約に努め、少なくとも昨年度の実績を下回るように努力してまいります。